＼ 話題がいっぱい ／

なかゆくい

市内各地で行われたイベントや、
まちの話題をお届けします。
ここで“なかゆくい”しませんか。
（なかゆくい＝ひと休み）

市ホームページ「うらそえトピックス」
にも市内のできごとを紹介しています。

10/13 緑豊かなまちづくりを推進

緑豊かな郷土づくりの理念のもと、アイム・ユニバースてだこホールで開催された沖縄都市緑化祭in浦添市では、大平保育所の園児によるダンスパフォーマンスや記念植樹、都市緑化功労者などを表彰する記念式典が行われました。沖縄県は毎年10月を沖縄都市緑化月間と定めており、今年の緑化ポスターの標語には市内在住の川満輝良さんによる『りっか！緑化！ティーダ歓々！』が選ばれています。

記念式典の最後には蘭の花のプレゼント抽選会も行われ、番号を呼ばれた参加者は嬉しそうにステージに向かい、受け取った花を見て「ありがとう、きれいだね」と喜びの声を上げました。

9/22 “まちからまちへ”大会旗が浦添に到着

国民文化祭の大会旗を県内41市町村でつなぐ、美ら島おきなわ文化祭2022大会旗リレーセレモニーが市役所1階で行われ、広報キャラバン隊の大兼のぞみさんと特別広報大使の花笠マハエちゃんがセレモニーに駆けつけました。

てだこキッズファースト宣言大使のてだ子も見守る中、県実行委員会の川上事務局長は「昨年の開催地である和歌山県から大会旗を引き継ぎ、今年は本土復帰50周年を記念して10月22日から沖縄で開かれます。ぜひこの大会を楽しんでほしい」と訪れた市民へ呼びかけながら、松本市長へ大会旗を手渡しました。

9/22 地域がつながる、新しい「みまもり」

1人暮らしをしている高齢者を、ITを活用してみまもる共同実証事業の協定を、浦添市とおきでんCplusCが結びました。これまでのカメラを使用した見守りとは異なり、手のひらサイズのセンサーを家に置くだけで、睡眠や在宅・不在の状況などを、離れて暮らす家族が確認できる仕組みを整えています。

松本市長は、「私自身も介護の現場にいたので、介護職員の苦労がとてもわかる。新しいテクノロジーを活用し、力を合わせていきたい」と今後の新しいみまもりに期待を寄せました。

9/30 スズケンの車が地域を見守る

株式会社スズケン沖縄薬品と浦添市および浦添市社会福祉協議会との地域見守りネットワーク事業協定締結式が行われました。この事業は市内の企業や各団体と市および社会福祉協議会が連携し、市内に住む誰もが安心して暮らせるよう見守りや声掛けなどを行う事業です。株式会社スズケン沖縄薬品の武藤社長は「市内では営業車、配送車を合わせた10台の青い車が浦添市を担当している。それを見た市民に安心してもらえるよう携わっていきたい」と話し、松本市長も「協力しながら安心して暮らせるまちづくりを進めていきたい」と話しました。

9/30 タオルでてだこまつりを盛り上げる！

第45回浦添てだこまつりの開催にあたり、販売するタオルデザインのWEB投票が行われました。28作品に3883票の投票があり、その中から1位に輝いた知念夢菜さん（写真中央）、2位の川﨑莉子さん（写真左）、3位の比嘉初佳さん（写真右）の作品が商品化されました。

1位の知念さんは「浦添とまつりを表現するために試行錯誤した結果、昼の太陽と夜の花火を表現したデザインにしました。投票は緊張したけど1位になれて嬉しかったです」と話し、松本市長は感謝の意とともに「汗を拭くのがもったいないくらいの素晴らしいタオルができて嬉しい」と称賛しました。

10/11 第76回浦添市戦没者追悼式

浦和の塔で第76回浦添市戦没者追悼式が行われ、松本市長をはじめ、議会や遺族会などの代表者と、平和について学び多くの人に語り伝えていく浦添市ピースメッセンジャー（市内中学生8人）が出席しました。式では市長が「時は流れ、当時のことを知る人が少なくなってきて、記憶の風化を危惧しています。本市でも平和学習などを通して、平和への願いを次世代へと継承していきます」と話しました。

ピースメッセンジャーからは、「私たちは行動しないといけない。必ず平和への一歩になるはずだから」と力強い平和のメッセージが届けられました。

10/8 かけがえのない自然環境を学ぶ

市内の自然環境について幅広く学ぶ、「てだこ環境プランナー養成講座」。全5回を予定しており、第2回は「海域生態系」と「里浜の保全・再生」をテーマに鹿谷法一さん（しかたに自然案内）と田邊治通さん（一般社団法人うらそえ里浜・未来ネットワーク）を講師に招きました。

午前中に座学で理解を深めたあと、実際にカーミージーで自然環境の状況を確認した受講者からは、「こんな近場にたくさんの生物が生息していることに驚いた。ただ、10年前と比べると生物も減っていると聞き、今後も触れ合える場所として、かけがえのない海を子どもたちに残していきたい」と話しました。